

令和7年度学校経営計画書

三次市立三次中学校
校長 角濱 慶司

I 学校の状況			(令和7年4月1日現在)
学 級 数	通常学級5 特別支援学級1 (自閉情緒)		計6学級
生 徒 数	1学年44名 2学年41名 3学年40名 特別支援学級7名 (1学年4名・2学年1名・3学年2名)		計132名
教 職 員 数	校長, 教頭, 事務長, 事務, 教諭12名, 養護教諭, 介助員1名, 学校支援員1名, 特支非常勤1名, 教務事務補助員1名, 非常勤講師 5名, SC1名, ALT2名		計29名
メー ル ア ド レ ス	miyoshi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp		
H P ア ド レ ス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/miyoshi-j/		

II 教育目標
＜みよし学園小中一貫教育目標＞ まちづくりに参画・貢献し、高い志を持つ児童生徒の育成 (家庭・地域との協働した学びと発信をととして)

【三次中学校教育目標】 自律と貢献の志を持ち、主体的に進路を選択する生徒の育成 ～ 一所懸命が好き! 夢と志を持ち 輝く私たち ～

【めざす生徒像】(市を代表する生徒である誇り) 1 夢と志を持ち、自らの進路実現に向けて、あきらめずに挑戦し続ける生徒 2 自分に自信を持ち、仲間を尊重し、積極的に他に貢献しようとする生徒 3 学校・家庭・地域の一員としての自覚を持ち、感謝の心を持つ生徒	【めざす学校像】(他校・家庭・地域・関係機関等を含めた「チーム三次中」) 1 危機に強く、組織的で機動的な学校 2 生徒及び教職員が、互いに磨き合い、高め合う文化がある学校 3 保護者・地域住民等と協働し、地域の拠点となる学校
---	---

Ⅲ ミッション・ビジョン

使命・存在意義 (ミッション)	「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り、持続可能な地域を形成する人材を育成する。
本校の将来像 (ビジョン)	生徒・保護者や地域から、「なくてはならぬ学校」として必要とされ、誇りとされる学校。(コミュニティとつながる本質的な学びを通して)

IV 重点事項
1 特に育成する資質・能力「身に付けさせたい力の具体化」 ○コミュニケーション能力…自分の考えを持ち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを通して、互いを理解し、認めあえる。 ○協調性…目的と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力できる。 ○主体性…自らの夢と志を持ち、自分から行動して新たな価値を生み出し、積極的に他に貢献しようとする。

2 特に努力する事項 【キーワード】「SMP (進往)」(守・破・離・高みを目指す実践の基本) 1 安全・安心 ・いじめ防止をはじめとする積極的な生徒指導の推進 (未然防止と課題即対応の徹底…いじめ認知解決100%, 不登校生徒ゼロ, 生徒指導上の諸問題半減) 2 挨拶 ・オアシス活動の充実 (AABCの徹底…挨拶, 言葉遣い, 清掃, 身だしなみ, 時間励行の徹底) ・部活動の充実 (部活動は人間磨きの場) 3 花 ・5S徹底…整理・整頓・清掃・清潔・躰 (し続ける) ・学習成果の積極的掲示・意図的発信 4 授業の充実 ・自立した学習者の育成に向けた一人一人への指導・支援の充実 読解力, 表現力及び発信の向上 (正確に読み解き, 見方・考え方を働かせ, 対話する力) 個別最適で協働的な学びの実現 (基礎的な語彙や知識の定着, 個の資質・能力が生かされる授業, UD・ICTの活用) 協働学習 … 予想させる場, 必然性のある場+比較, 分類, 関係付け, 類推 (知識・アイディア共有) ⇒新しい解や納得解を生み出す力 まとめと振り返り … 生徒の言葉でまとめる & 学びを振り返る (学習 ⇄ 本物の社会を繋ぐ ⇒ 教科等を学ぶ本質的な意義 ⇒ 学習による変容が実感できる)
--

V 中心課題・行動規範

「生徒の自律のためになるか、ならないか」で主体的に**判断・挑戦**し、行動する自律した教職員

【教職員の遵守規範・行動指針】

1 三次中学校教職員としてのアイデンティティの確立

「プロ意識」…より良く、やり切る、一丸となって
「バランス感覚」…職場、家庭、地域の一員として
「人間性の陶冶」…磨き続け、学び続ける

2 危機管理「さしすせそ」

さ：最悪を考えて、し：慎重に事実に基づいて、す：素早く、せ：誠意を持って、そ：組織的な対応を

3 職務遂行の基盤

「コミュニケーション」…報告・連絡・相談・確認・記録、組織の一員としての自覚、
「整理整頓」…業務遂行環境の整備（いつでも必要な情報を取り出せる）
「根拠に基づく職務遂行」…経験則でなく、根拠をもった説明や指導

4 3原則に基づく目標設定（教職員も生徒も保護者も地域も）

「達成可能」…継続的に努力することで達成できること
「評価可能」…目標が達成できたかどうかを客観的に確認できること
「簡潔明瞭」…誰にもわかりやすいこと

VI 現状分析

外部環境	【支援的要因】	【強み】	内部環境	【支援的要因と強みを生かした取組】
	◇地域学校支援者の存在 ◇県教委・市教委によるグランドデザイン及び具体的施策 ◇小中一貫教育、家庭・地域連携推進組織による校区内連携体制 ◇まちづくりを担うコミュニティ・スクールの基盤 ◇生徒の活動の積極的発信 ◇ICT等の学習環境整備	◇生徒の進路実現を目指し、チームワークを意識した教職員 ◇生徒指導の迅速・組織的対応 ◇様々な活動に積極的に取り組む感性豊かな生徒の存在（生徒会、各種検定、コンクール等） ◇「本校に入学させてよかった」と思う保護者の存在（90%超） ◇学校・学年行事、PTA活動、部活動等に協力的な保護者		・コミュニティ・スクールを中心とした地域・保護者との協働教育 ・小中一貫の系統的カリキュラムマネジメントと主体的な学びにつながる自己指導能力の育成 ・ICT機器の有効活用（個別最適化された学びと協働的な学びの実現） ・地域貢献や実体験の主体的な学びの推進（目的共有化、地域資源の活用・還元、地域と双方向、学びの実感）
内部環境	【阻害的要因】	【弱み】	外部環境	【弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策】
	◆子育てに不安を感じている家庭の存在 ◆家庭だけで解決できない課題の多様化 ◆教材研究や生徒と接する時間等の確保の困難性 ◆校舎・体育館等の施設・設備の老朽化 ◆講師増で時間割編成が困難	◆学習者起点の能動的な学びを実現するための授業研究のさらなる共有化 ◆現状維持、向上心、自己肯定感が低い ◆保護者同士、生徒同士の人間関係の希薄化 ◆学習習慣と学習環境の改善 ◆基礎学力の定着（計算力と読解力）		・読解力等の基礎的な力の確実な習得 ・自分で自己の学び方を学べる指導・支援 ・協働学習の授業づくりを基にした全教科での授業改善（個を意識した学びとの往還） ・学力・生活力の向上のための小中連携の取組の焦点化 ・時間の有効活用と多様性の包摂ある学校づくり

- ① 生徒理解を深めるとともに、生徒指導規程に基づく一貫した指導による、安全・安心な学校体制の確立。
- ② 小中で一貫した系統的な「探究」カリキュラム実施による育成すべき資質・能力の共有と向上。
- ③ ICTの有効活用等、具体的な授業改善と個に応じた家庭学習等の積み上げによる語彙、読解力、数的感覚等、学力の基礎の確実な習得。
- ④ 未知の世界に挑戦し、試行錯誤する中で、自己に対する自信醸成のための実体験重視（人間としての強み、新たな価値創造等）。
- ⑤ 当事者意識を持った多様な他者と関わりながら、社会の中で活躍できる力を学んでいるという実感。

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	担当部
確かな学力の育成	学力の定着・向上	基礎学力の向上	- 定期試験における知識・理解、思考・判断・表現力の観点達成率 - 市学力検査（平均正答率と30%未満生徒の割合）	教務部
		育成すべき資質・能力の向上	- 自校の質問紙「3つの力アンケート」 - 総合質問紙調査（コミュニケーション能力、協調性、主体性） - 各種検定受検生徒の割合	教務部 生徒指導部
豊かな心の育成	社会性、自己認識の向上	生徒指導諸問題の未然防止	- 問題行動の状況と対応 - 不登校生徒数 - 諸問題認知解決指導 100%	生徒指導部
		生徒会活動の活性化	- 委員会活動実施状況 - 生徒満足度 - 総合質問紙調査（計画性・目標設定・自己認識・社会性）	生徒指導部
健やかな体の育成	自律的な生活習慣の定着と体力の向上	基本的な生活習慣の充実	- 三点固定が定着した生徒の割合 - メディアコントロール実施達成率	健康安全部
		健康安全意識と体力の向上	- 体力・運動能力調査（国・県平均以上の生徒割合） - スポーツ振興センター災害共済利用割合	健康安全部
信頼される学校	学校・家庭・地域が連携した「魅力ある学校づくり」の推進	小中一貫教育の充実・発信	- 生徒・職員満足度 - オリジナルカリキュラム実施率（まちガイド展開プログラム）	総務部
		学校への満足度・信頼度の向上	- 本校に入学してよかったと思う生徒・保護者の割合 - 保護者・地域関係者の学校支援活動参加数	総務部